

過疎化対策は、若い人の働く場をつくることだ

秋山 館山市の場合、平成2年には人口が5万6000人でしたが、去年の6月現在で、5万人を切り4万9939人になりました。高校を卒業して進学や就職で地元を離れ、そして館山には帰ってこない。理由は当たり前で、働く場がないからです。若い人が住まなければ子供もできない。館山市宝貝地先に平成4年から千葉県金業庁により事業を進めているのが、館山工業団地です。ところが現在に至っても手をあげた企業が一つもない。なぜかといいますと、団地に企業が進出を決定してから、環境調査、基本設計、用地測量、造成・給排水工事などを始めるオーダーメイド方式だからです。整備に6年もかかる団地に企業はのんびり待っているわけがない。言ってみれば山1つ与えられただけです。県には、せめて粗造成だけでも進めてもらうよう訴えました。最近では、景気が上向いている中で、首都圏に近い工業団地の売れゆきが好調だそうです。館山工業団地を通る公道も整備されました。館山自動車道の開通により、団地から県都へは60分、都心へは90分。地の利は十分です。

木下 発想が少し逆になりますが、南房総は思いきつて「老人天国」にしたらどうか。老人という言葉は良くないですが、最近では高年がいたって元気です。人口の多い層へのサービスを徹底させる戦略です。観光名所になるくらいに至るの環境づくりには、新しい産業と若い人の力が必要です。新しい雇用の場を増えたいと思います。

亀田 昨年のいろんな事件を見ますと、地球も地球人もかなり病んでいる気がします。私が「すこやか立国」を提言したのも、まず健康でなければ、という思いです。それは人間の健康はもろいこと、自然環境も、生活も、産業も、観光も、すべて、「すこやか」でありたいと願っています。鴨川は海、山、里、街がほどよく調和しています。良質な自然も残っています。生きることに疲れた人は、だれでも、南房総に来て元気を取り戻してもらいたい。そのためには、そこに住む私たちが、まず「すこやか」でなければ意味がないわけです。

県南思考

私たちは、行動する県会議員として3人結束し、常に住民の皆様とコミュニケーションをとり、県南独自の考えや要望などを、理想の地域づくりをめざして努力します。小紙「県南思考」をお読みにになり、お感じになったことや、ご意見、ご要望などを各議員におよせください。お待ち申しあげます。



県南思考

皆は一人のために、
一人は皆のために

編集者／秋山 光章
亀田 郁夫
木下 敬二



新年あけまして、おめでとーございませう。

「県南思考」創刊新年号は、市民の皆さんの「県会議員の活動が見えにくい。県は今何を考え、県南選出の議員は何をめざし、どんな行動をしているのか？」という声にお応えするものです。

県南の3議員は、館山市の秋山光章（あきやま みつあき）、南房総市・安房郡の木下敬二（きした けいじ）、鴨川市の亀田郁夫（かめだ いくお）です。

3人とも県会議員としては1期生で、年齢も近く、全員血液型がAB型（これはあまり関係ありませんが）、いずれも走りながら考えるタイプ、つまり行動派であります。

新年ということで堅苦しくなく、本音（ほんね）で3議員が語り合いました。

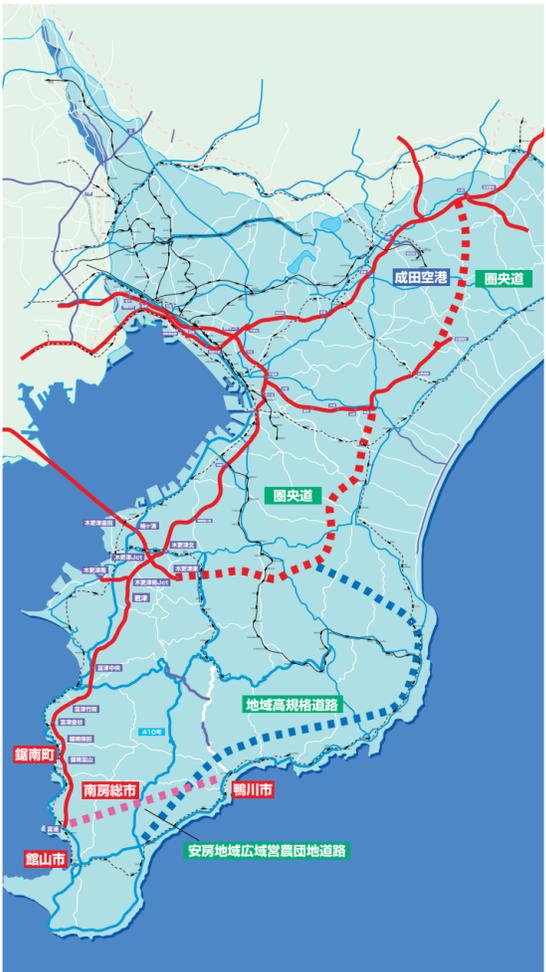
「県南思考」を読んでいただいて、県政の姿をおぼろげながらとらえていただければ幸いです。

県南は、少数民族か？

秋山 館山市の市議として15年8ヶ月務めさせていたで、常々思っていることは、県南は遅れている、ということだと思います。県からの成果が数字に表れない。そんな思いで県議会で最初の一般質問をいたしました。千

議員の数で政策を決めているのではありません」とお答えになりました。（笑）

木下 とにかく県議員の数は多いし、地域により考え方も違う。千倉町長という首長経験から申し上げると、県政はスピード感が無い。町長は、直接求められる要望などに即対応し、結果を出すわけですが、県議会では答弁が行政用語で逃げられてしまう。自民党・政務調査会に市町村から上がってくる要望の9割が道路土木関係です。県執行部は、「前向きに取り組みます。十分に検討させていただきます。さらに推進するよう努力いたします」の一



点張りですね。これからは考えないと。毛利元就（もうり もとなり）の三本の矢の教訓ではありませんが、一本の矢では折れても、秋山さん、亀

田さんと3本束になれば、折れない強いパワーとなり、県政をゆさぶることができるのではないかと。

都内に近い南房総に求められているもの。

亀田 千葉県議員になって9ヶ月、その間議会は3回経験しましたが、県議としては初心者です。住民の皆さんと同じ視線で県政を見て、がんばっていますが、千葉県は昨年度予算で、国からの地方交付税が見込みより100億円の減額となり、いまや財源不足は200億円に達しています。予算をどこに振り

当てるのかという点では、県はたしかに、県北と向いている。なぜか？羽田空港の国際化が理由の一つです。いままで成田空港は国際線、羽田空港は国内線と区分けされていましたが、羽田空港の拡張により海外からの渡航者も羽田で受け入れる流れになってきた。はつきり言って東京都心に



木下 敬二 (きした けいじ)

昭和23年5月17日生●血液型/AB●家族/7人●趣味/歴史小説(中国) 読書 ゴルフ●好きな言葉/温故知新

事務所/〒295-0005
南房総市千倉町牧田164-1
TEL:0470-44-4111 FAX:0470-44-4112
E-mail:kishita@awa.or.jp



亀田 郁夫 (かめだ いくお)

昭和27年2月16日生●血液型/AB●家族/3人●趣味/マリンスポーツ 空手●好きな言葉/有言実行

事務所/〒296-0041
鴨川市東町665
TEL:04-7099-0190 FAX:04-7099-0191
E-mail:ikuo-k@leaf.ocn.ne.jp



秋山 光章 (あきやま みつあき)

昭和21年9月21日生●血液型/AB●家族/6人●趣味/ドライブ●好きな言葉/日々精進(精一杯)

事務所/〒294-0045
館山市北条2570-11SKビル1-1
TEL:0470-23-5252 FAX:0470-23-5251
E-mail:ohshimiz@poppy.ocn.ne.jp

観光振興の90%はインフラの整備。

木下 観光のためのインフラ整備といえ、そのほとんどが道路整備です。知事さんだってわかっているけど、金がない。鴨川から富浦へ通す観光と農産物の流通道路として期待されている広域営業団地道路にしても、事業主体が緑資源機構だったために、談合事件から廃止になり、道路開通も宙に浮いてしまった。館山自動車道路が全面開通しましたが、私はさらに

外房ラインで結ぶ地域高規格道路への着手が期待されます。私はアクアラインの料金800円化運動を推進していますが、去年8月、国はアクアラインの料金を下げての社会実験を行い、値下げ実現化へ一歩近づいたと思っています。



秋山 光章

過疎地にこそ、高速ブロードバンドサービスを！

木下 私は、南房総市の市長、鋸南町の町長と相談の上、9月の県議会での一般質問に、高速ブロードバンドサービスの格差は正の件を入れました。県内のブロードバンド整備は平成19年6月末で世帯カバー率がADSLで97・7%、光ファイバーが85・9%となっています。しかし南房総市や鋸南町などの過疎地域は整備が進まない。これはあたりまえで、NTT

とか企業は採算性の悪いところには投資しないからです。県は条件不利地域へのブロードバンドサービス整備のための推進組織を去年の12月中に設置するを応援しました。

題だけでなく、これからの都市部の人は、癒やしを求めて、原風景の残っている第二のふるさと・鴨川にやってくる。情報のないところに人は来ない。地元の人との双方の受発信こそ、観光をはじめ新しい産業の振興につながる。県は強いリーダーシップを発揮して過疎地へのブロードバンドサービスの整備を急ぐべきです。

本当に深刻なイノシシの害。

秋山 私は第一次産業が元気になることが、観光を含めて、この地域が元気になることだと考えています。いまのイノシシの害で、農家の耕作放棄がどんどん進んでいきます。稲の収穫時期になるとイノシシが田に入り、田の中でねころんで田全体の稲を倒してしまう。ビワ山に入り根を掘りミミズを食べる。さらにビワ山にサルが入ればその山はもうダメだそうです。緊急対策として、鋸南や嶺岡にかけて大型の箱ワナをかけ、九重から千倉方面へとイノシシが進出しないうちに宇田トンネルに冊を設けるなどですが、とにかく国や県が野生鳥獣の害に対して抜本的な対策を早急に立てるように、県議会で要請したところです。

と企業は採算性の悪いところには投資しないからです。県は条件不利地域へのブロードバンドサービス整備のための推進組織を去年の12月中に設置するを応援しました。

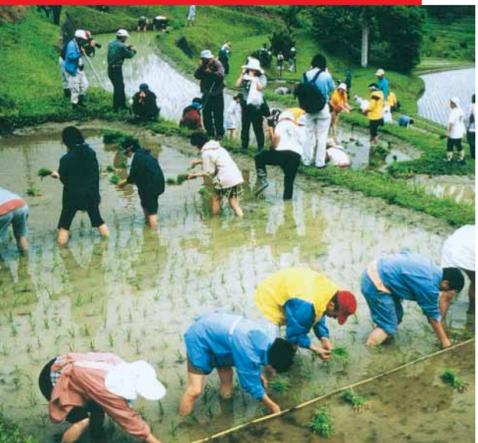
がとなりになったイギリス人の男性がいました。日本人の奥さんと和田の別荘に住んでいて、シンガポールで投資会社を経営しているのですが、彼が言うには、南房総ほどいいところはない。自分が生まれ育ったイギリスより、のどかな原風景が残っていてすばらしい。ただし「ITの問題さえなければね」というんです。

秋山 私は第一次産業が元気になることが、観光を含めて、この地域が元気になることだと考えています。いまのイノシシの害で、農家の耕作放棄がどんどん進んでいきます。稲の収穫時期になるとイノシシが田に入り、田の中でねころんで田全体の稲を倒してしまう。ビワ山に入り根を掘りミミズを食べる。さらにビワ山にサルが入ればその山はもうダメだそうです。緊急対策として、鋸南や嶺岡にかけて大型の箱ワナをかけ、九重から千倉方面へとイノシシが進出しないうちに宇田トンネルに冊を設けるなどですが、とにかく国や県が野生鳥獣の害に対して抜本的な対策を早急に立てるように、県議会で要請したところです。



木下 敬二

秋山 館山市では、大動脈の道路が整備されると、その受け皿的な地元道路がボトルネックになってしまおうというところで、私が議長をやっていた頃から、あるバイパス開通のために予算をつけて調査をし、県に上げたんです。この度県議になり改めて県に問いただしましたら、バイパスに関して県はほとんど動いていなかったことがわかりました。地元の道路事情は住人にしかわかりません。県には強力で押し上げる必要があります。



都市交流型農業、漁業を考える。

木下 今日は本音の話を、ということなので、個人的な意見としてですが、第一次産業を守れといったって、年収が一〇〇万円以上稼げないと、事業としての魅力がないと思いますね。水産加工に力を入れるわけですが、原料の魚は、ノルウェーから来たりします。水産業も現状を維持するだけで、せいっぱいですよ。

亀田 去年は、偽という字が世相を象徴したようですが、ダンゴ一つとてみても、本物のいいモチ米を使えば、味がぜんぜん違うそうです。昔のダンゴの味がする「長狭団子」なんてうまそうですね。中山間農業は、北海道の農業と比較しても意味ないから。都市交流型の農業はどうあるべきかを考えていく。ブランド化するには、相当しつかりした農産加工品づくりが、やはり必要です。モノがありあまっている時代ですからね。

秋山 全国的に医師不足、看護師不足が問題になっていますが、館山の場合は特に救急医療の問題です。心臓や脳関係の救急は、30分以内が勝負です。鴨川の病院だそうなんです。もまでは1時間かかってしまう。いま県から国に要請しているドクター・ヘリ(空飛ぶ救急病院)が県南であれば鴨川まで15分と時間の短縮になります。また、ヘリコプターに患者が乗ったときから医療が始まりますから、どれだけの命が救われるかということですよ。

木下 去年の月刊現代10月号の住みやすさランキング2位は、鴨川市。

がかったのが原因です。県議会の一一般質問でも各議員が医療問題に着目し、連日取り上げる程でした。とにかく一歩一歩でいいですから医療体制の整備充実をはかり、県民が安心して暮らしていけるよう手助けをしたいと思います。

病院がしつかりしてなければ、地域に人も呼べない。

亀田 病院勤務医の多くは、いままです大学病院の医局の指示で関連の病院に振り当てられていたのですが、研修医制度により、研修医が自分で好きな病院を選べるようになり結果として、病院間の医師数にかたよが見られるようになりました。これにより、いままです5人体制でやってきた病院が3人体制になると、負担は医師や看護師にかかってくる。いっばい、いっばいでやっているなら

月刊現代で、首都圏住みやすさランキング2位は、鴨川市。

秋山 最近、団塊世代を中心に、リタイア後は温暖な地・南房総に住みたいという人が多いですね。海もある、山もあると、遊びにはいいですが、定住となると先ほどもいいましたが、病院とか水道とか基本的な生活インフラがととのっていないと…。

た南房総市は、観光や水質保全の観点からも、合併浄化槽による汚水処理が、経済的かつ効率的なんです。観光を支える多くの民宿でも、合併浄化槽の普及は進んでいません。新設の場合は国の補助基準額に基づいて、国、県、市町村で共同の補助を行っています。ところが県では、合併浄化槽の補助金を減額にし、平成20年度をもって補助金そのものを打ち切りとなっています。南房総市、鴨川市、鋸南町では、補助制度廃止について反対ということで、市長会と自民党県連政務調査会に要望書を書き提出しました。私は県に対して補助制度廃止の見直しと補助対象地区はあまねく平等であるべきだと訴えました。太平洋側に面している白浜、千倉、丸山、和田などは、補助対象外の地区になっていきます。



亀田 郁夫

秋山 私はいま、米の粉を使った食品加工を提案しています。稲作は春代かきをして田植えすれば、あとは管理だけで収穫できます。米は比較的労力が少ない。米からはパン、うどん、せんべいなど、何でも加工できます。米どころ南房総の

木下 なんで救急のたらい回し、医師不足になっちゃったかは、厚生労働省の医療改革の失敗が根本だと、私は思いますよ。